

# JSWのビジネスフィールド

BUSINESS FIELD

産業機械、そして素材形・エンジニアリングという2つの事業を柱としたJSW。その独自の技術によって、モビリティ、情報通信、電力、さらに防衛、食品まで、様々な分野に高品質の製品を提供し続けています。日本のみならず世界をフィールドに、類まれな存在として、期待に応える。そんな私たちの幅広い事業活動の一端を、ここにご紹介します。



MOBILITY  
モビリティ

時代に合わせて変化しているモビリティ（自動車/航空機/鉄道）に合わせ、多種多様な部材/部品を製造する機械を提供しています。

関連製品  
フィルム・シート製造装置、各種射出成形機、各種新事業関連、連結器/緩衝器 など



ELECTRONICS  
情報通信/エレクトロニクス

パネルディスプレイの高品質化などを通し、社会の進歩に欠かせない最新技術を駆使し、情報通信の発展に寄与しています。

関連製品  
レーザーニール装置、ラミネータ製造装置 など



DEFENSE  
防衛

出典：陸上自衛隊HP

創業時から培ってきた技術を基に、国を守る防衛機器を製造し、国の安全と国民の安定した生活を守っています。

関連製品  
防衛関連機器



STEEL  
鉄鋼

お客様の要望に合わせて様々な鋼を提供。日常生活では目に見えませんが、様々な形や強さで私たちの生活を支えています。

関連製品  
各種クラッド鋼板、溶接構造物、水素蓄圧器 など



ELECTRIC POWER  
電力

大出力の発電所に対応する部材をつくり、日本のみならず世界の電力需要に貢献しています。

関連製品  
発電用一体型ロータシャフト、圧力容器 など



OIL/NATURAL GAS  
石油/天然ガス

私たちのインフラを支えるうえで欠かせない化石燃料。これらを加工し、運ぶ製品を展開しています。

関連製品  
ケミカルタンカー など



PETROCHEMISTRY  
石油化学

生活に身近な石油化学品であるプラスチック。私たちは化学製品を生産・加工する各種機械装置を手がけています。

関連製品  
造粒機、二軸混練押出機 など



FOOD AND DAILY NECESSITIES  
食品・日用品

食品や日用品の包装紙や容器にはプラスチックが使われていますが、ここにも私たちの技術、そして製造した機械が関わっています。

関連製品  
フィルム・シート製造装置、射出成形機 など



# Material Revolution<sup>®</sup>

の力で世界を持続可能で豊かにする。



## Company Profile 会社概要

社名 株式会社日本製鋼所 (The Japan Steel Works, Ltd.)  
創業 1907年(明治40年)11月01日 設立 1950年(昭和25年)12月11日  
本社所在地 東京都品川区大崎1丁目11番1号

## Japan



## World



## 株式会社日本製鋼所

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目11番1号 ゲートシティ大崎ウエストタワー  
人事教育部 採用・教育グループ 採用担当  
TEL:03-5745-2031 Mail:recruit@jsw.co.jp

採用サイトはコチラ

<https://saiyo.jsw.co.jp/recruit/>



# JSW 日本製鋼所

THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.



# 世界の課題に答えはあるか。

私たちの目の前には、地球規模の差し迫った問題が山積みです。たとえば加速する温暖化に伴う環境破壊や気候変動。世界が抱える幾多の課題に、日本製鋼所だからこそ提供できる技術で、提示できる知見で、持続可能な社会の実現に貢献したい。私たちの活動を、いかに世界の課題解決につなげるか。その難題に、誠実に挑み続けています。

## 1 廃プラスチックに解決策はあるか

世界の海を脅かす海洋プラスチック問題など、廃プラスチックは世界的な課題の一つですが、プラスチックは優れた物性を持ち、今後も様々な用途に展開され、生産量も増加すると予測されています。私たちはこの課題に対し、「溶かす」「混ぜる」「固める」技術を持った二軸混練押出機「TEX」によるリサイクルを目指しています。化学反応によってプラスチックの再利用を可能にするケミカルリサイクルという繊細な技術。私たちの「機械要素技術」と「精密制御技術」こそ、持続可能な循環型社会に貢献できると確信しています。

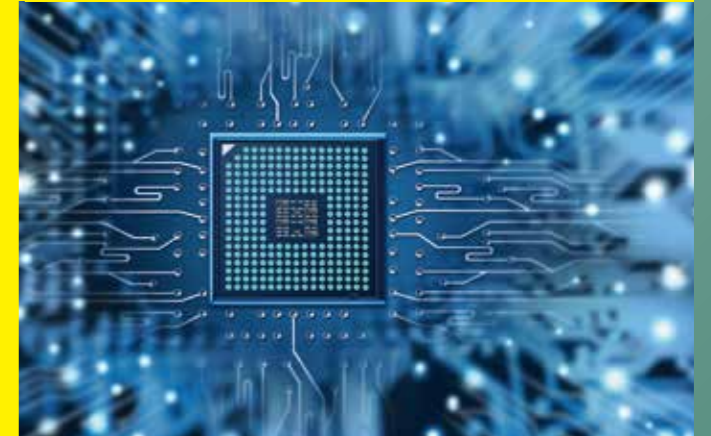
樹脂製造機械営業部(本社)  
コンパウンド機第一グループ R・Y



## 3 パワー半導体は本当に可能か

エネルギーロスを減らせ。この切迫した課題に応えるため、世界の技術者たちが新たな技術開発に取り組んでいます。その一つが次世代半導体材料である窒化ガリウム(GaN)を用いたパワー半導体デバイスの実現。約80%ものエネルギーロス削減が可能です。しかしGaNは自然界には存在せず人工的に製造する必要があります。同時に広く普及させるために、高品質、安価、大量に製造できなければいけません。今、私たちは産学と共同で、世界でも類を見ない技術開発に挑み続けています。

新事業推進本部(室蘭製作所)  
フォトニクス事業室 窒化ガリウムグループ K・K



## 2 プラスチック製品の軽量化に向けて

化石燃料を原料とするプラスチック製品同様、それを製造する射出成形機も環境負荷低減の要求が高まっています。その中で私たちは機械(機械要素技術)とIoT/AI(通信インフラ・精密制御技術)等の最新技術を駆使することで、より環境負荷を低減したソリューションの提案をしています。その一つに成形品内部に気体を加え発泡させ、樹脂量の削減と成形品の軽量化を実現する「発泡成形技術」があります。これは自動車などの軽量化に貢献しています。これら技術を駆使しお客様と協力して、そのニーズに応える技術開発を推進していきます。

射出機械部(広島製作所)  
成形技術グループ Y・K



## 4 タービンの進化は発電を変革するか

電気がない世界。快適な日常も失うことでしょう。私たちは火力、原子力など様々な発電で使用されるタービン軸材の提供を通じ、電気の需要の高まりに応じてきました。その材料の元となるインコット製造では、水素や非金属介在物による品質不良が課題の一つ。しかし、防止する技術はまだ確立していません。私たちはマイクロ視点の見える化などセンシング技術を活用し、製造時のバラつきを低減する取り組みを開始。未来の電気の安定供給に貢献する挑戦です。

日本製鋼所M&E(室蘭製作所)  
素形材製造部 製鋼課 T・S



### JSW so far これまでのJSW

JSWは、日露戦争後の1907年に日本と英国の合併事業により北海道室蘭の地で創業しました。創業当時からものづくりに誠実に取り組み、そのDNAを脈々と受け継いできました。現在、合成樹脂(プラスチック)の製造・加工機械やIT関連機器などの「産業機械事業」、そして電力・石油・ガス関連の「素形材・エンジニアリング事業」を主力に、社会インフラや人々の暮らしを支える企業として、皆さんの見えなところで広く貢献しています。

### Future JSW これからのJSW

100年以上続くものづくりの中で、世界の人々が目を見張る独自技術を数多く生み出してきました。そして2022年、Purpose(パーパス)を制定。未来へ向け、私たちの新たな企業像を提示したものです。産業機械や新素材の開発による社会課題の解決へ、難題に取り組む姿勢を明確にしました。これまで培ってきた「溶かす」「混ぜる」「固める」技術、そして「機械要素技術」や「精密制御技術」を一層進化させ、これからも挑戦を続けます。

日本製鋼所グループのPurpose

# Material Revolution<sup>®</sup>

「Material Revolution」の力で世界を持続可能で豊かにする。

日本製鋼所グループのコアコンピタンス

「溶かす」「混ぜる」「固める」技術+「機械要素技術」「精密制御技術」